

令和7（2025）年度家庭教育支援プログラム指導者研修②実施報告

実施日：令和7（2025）年7月4日（金）

○ 説明「参加型学習と家庭教育支援プログラムとは」 総合教育センター職員

参加型学習の有効性や家庭教育支援プログラムの種類や基本構成などについて示されるとともに、家庭教育支援プログラムの活用によって、参加者にもたらされる効果などについて説明がありました。受講者は、参加型学習を取り入れることで保護者同士の語り合いや学び合いの場が作りやすくなることを知りました。

○ 説明・演習「成人の学びを支援するファシリテーターのスキル」 総合教育センター職員

家庭教育支援プログラムの主な対象である成人（保護者）の学びについて確認しました。その上で、実際にファシリテートするための基本となる、4つのスキル（場のデザインのスキル、対人関係のスキル、構造化のスキル、合意形成のスキル）について、演習を交えた説明があり、受講者は、ファシリテーターとしての基礎的なスキルについて学ぶことができました。

○ 演習「よりよい関係づくりを促すアイスブレイク体験」

河内教育事務所ふれあい学習課	社会教育主事	森 美佑紀
上都賀教育事務所ふれあい学習課	社会教育主事	加藤 夕貴
塩谷南那須教育事務所ふれあい学習課	社会教育主事	平野 純
那須教育事務所ふれあい学習課	社会教育主事	相澤 慎吾
安足教育事務所ふれあい学習課	副主幹	齋藤 秀則



参加者の緊張をほぐし、安心して活動に参加できるようにするため「アイスブレイク」演習を行いました。実際に、受講者同士でインisial自己紹介やバースデーライン、ナインドット等、教育事務所職員の円滑なファシリテートのもとで、様々なアイスブレイクを体験しました。

受講者は、自然と笑顔が見られ、その場の雰囲気や和らぐ様子を実感していました。

○ 事例発表・演習「家庭教育支援プログラムの実際」 県東親育ちスマイルネット

県東親育ちスマイルネットの皆さんに、事例発表及び演習をしていただきました。事例発表では、就学時健康診断や小・中学校の家庭教育学級など、様々な機会で行っている様子の紹介がありました。

演習では、「子どもとのコミュニケーション」についてのプログラムを実施していただきました。エピソードの紹介時には、寸劇を交えるなど参加者が場面をイメージしやすくなる工夫がなされていました。

また、ファシリテーターの5人がチームとして、明確に役割分担されていたことで受講者は、スムーズに演習を進める様子を体感することができました。

受講者は、団体が普段行っている活動について知るとともに、ファシリテーターがプログラムをどのように進めているか、どのような言葉かけをしているかがわかり、研修修了後の活動をイメージすることができたようです。



☆ 受講者の声（アンケートから）

- ・ファシリテーターの基本がわかりやすくととても勉強になりました。
- ・参加者が主体的に学べる場を作ることが大切だと感じました。地域で家庭教育支援を実践されている方々の取組を聞いて、具体的にイメージすることができたので良かったです。
- ・参加に関してのハードルを下げることで、これから参加するのが楽しくなるようなアイスブレイクの実演から、アイスブレイクの大切さを実感しました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp